

日本子ども社会学会
研究集会 プログラム

2018年12月2日（日）

於 武庫川女子大学

共催 武庫川女子大学



日本子ども社会学会 研究集会 プログラム

1. 期日

2018年12月2日(日)

2. 会場

武庫川女子大学 中央キャンパス

3. 日程

【前日 12月1日(土)】

12:00 ~ 16:00 各種委員会(研究所棟3階306号室)

16:00 ~ 18:00 理事会(研究所棟3階306号室)

【当日 12月2日(日)】

9:00 ~ 受付(MM館5階 エスカレーター横)

9:30 ~ 12:00 研究発表I(MM館5階 各講義室)

12:00 ~ 12:40 総会(MM館5階505号室)

12:40 ~ 13:20 昼食

13:20 ~ 15:20 研究発表II(MM館5階 各講義室)

テーマセッションI(MM館5階 各講義室)

15:40 ~ 17:40 研究発表III(MM館5階 各講義室)

テーマセッションII(MM館5階 各講義室)

4. 大会参加費

一般会員:3,000円、 学生会員:1,000円、 臨時(当日)会員:3,000円

5. 発表時間

個人発表:発表20分・質疑応答5分

共同発表:発表40分・質疑応答10分

6. 発表取り消し

発表の取り消し、および発表日時の変更は原則として認めていません。

発表の取り消しの場合は、早急にお知らせください。

7. 当日配布資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は、30部以上ご用意ください。

不足の場合、大会本部でのコピーはできません。

8. 発表に際しての注意

発表の際、プロジェクターは各室に備え付けてあります。パソコンについては、大会校でも用意はしておりますが、ご自身のものを使用していただくことも可能です(全ての教室で、接続ケーブルはRGB・HDMIの両方に対応)。

なお、Mac や Surface を使用される場合、大会校でも HDMI に接続する Mini Display Port 用コネクタを用意いたしますが、各自でお持ちいただければ幸いです。

9. クローク

研究集会ではクロークをご用意しませんので、荷物は各自でお持ちください。

10. 会員控室

MM 館 5 階 504 号室に、お茶・お菓子などを用意しております。どうぞご利用ください。抜刷・資料交換コーナーもこちらに設けます。

11. 昼食

2 日(日)には、食堂は営業をしておりません。コンビニエンス・ストアは、大学の近くに 2 店、鳴尾駅前に 1 店ありますが、飲食店はほとんど営業をしておりません。大変恐縮ですが、各自お弁当などをご準備いただきますようお願いいたします。

12. 大会本部

MM 館 5 階 508 号室に設けています。

13. 連絡先

日本子ども社会学会 事務局
〒152-0004
東京都目黒区鷹番三丁目 6 番 1 号 内外出版株式会社
日本子ども社会学会事務局
Fax : 03-3712-3130
Mail : jscs@naigai-group.co.jp

※発表要旨集録について

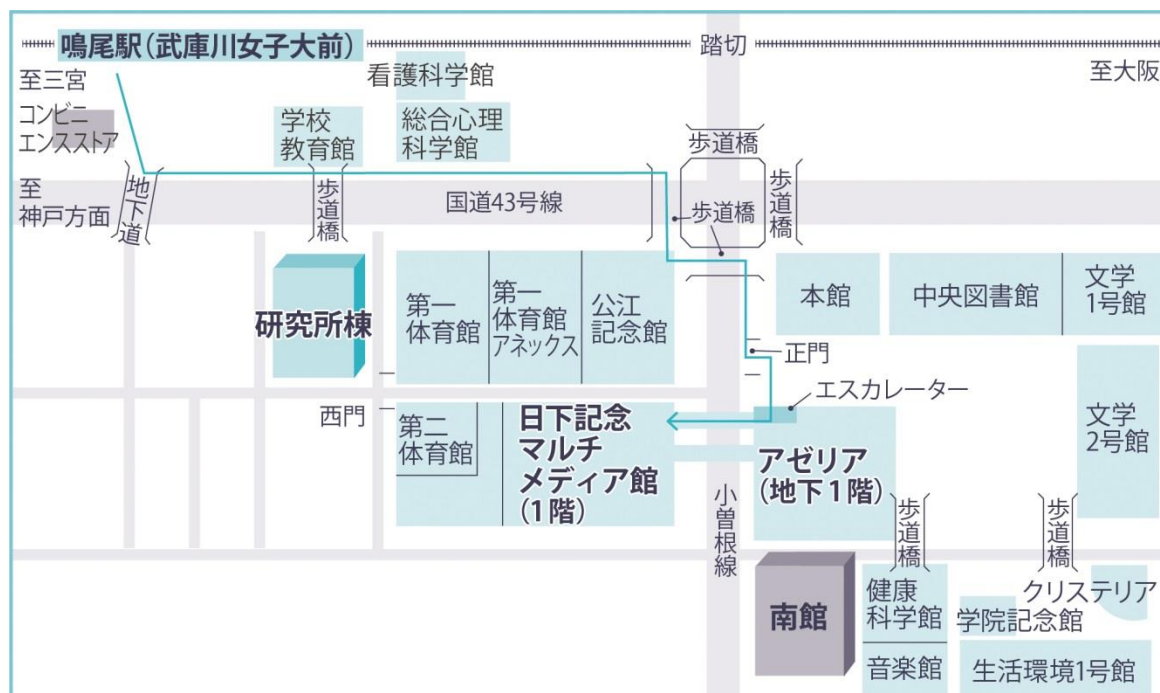
研究集会では発表要旨集録を作成いたしません。

なお、第 25 回大会の発表要旨集録は希望者にお渡ししますので、研究集会受付時にお知らせください。

武庫川女子大学（中央キャンパス）へのアクセス

最寄駅（鳴尾駅）からのアクセス

- 阪神電車・鳴尾駅を南側に出て、国道43号線に沿って東（梅田方面）へ徒歩10分。正門から入って、日下記念マルチメディア館へ。（西門は平日・土曜の昼間のみ開門）
（なお、12月1日の各種委員会、理事会は研究所棟にて開催いたします。）



最寄駅（鳴尾駅）への交通アクセス

空路の場合

- 大阪国際空港（伊丹空港）から空港リムジンバスで阪神甲子園駅まで約30分。甲子園駅から阪神電車で鳴尾駅へ1分。
- 神戸空港から神戸新交通ポートアイランド線で三宮駅まで18分。神戸三宮駅から阪神電車（鳴尾駅）へ25～30分（特急か急行に乗り換え、西宮駅か甲子園駅で普通に乗換え、鳴尾駅下車）。
- 関西国際空港からリムジンバスで阪神西宮駅まで約60分。西宮駅から阪神電車の普通に乗車し鳴尾駅へ6分。

新幹線の場合

- 新大阪駅からJRで大阪駅（梅田）まで4分。梅田駅から阪神電車（鳴尾駅）へ26分（梅田駅で特急か急行に乗り換え、尼崎駅で普通に乗換え、鳴尾駅下車）。
- 新神戸駅から神戸市営地下鉄西神・山手線で三宮駅まで2分。神戸三宮駅から阪神電車（鳴尾駅）へ25～30分（神戸三宮駅で特急か急行に乗り換え、西宮駅か甲子園駅で普通に乗換え、鳴尾駅下車）。

※1. JR 甲子園口から阪神バスは出ていますが（武庫川女子大学前下車）、本数が少なく、渋滞することもあるため、阪神電車の利用をお勧めします。

※2. 武庫川女子大学 HP もご覧ください（<http://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/access.htm>）

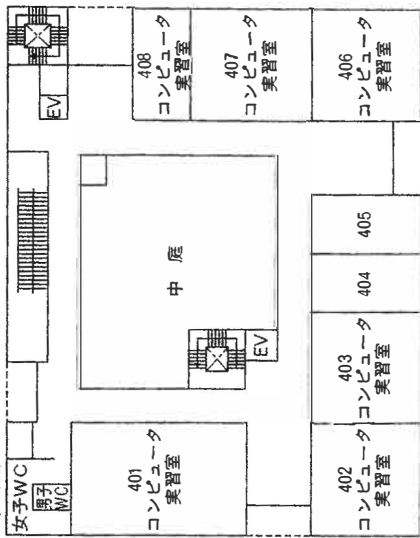
武庫川女子大学 中央キャンパスマップ



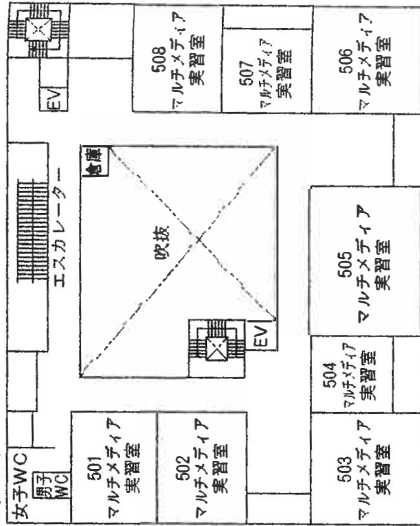
※日曜日は西門が締まりますので、正門からお入りください。

日下記念マルチメディア館 (MM)

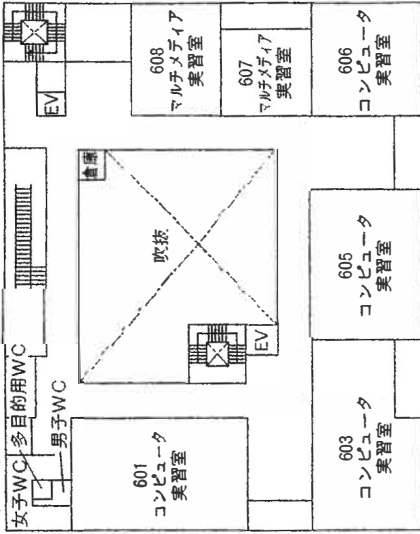
〔4階〕



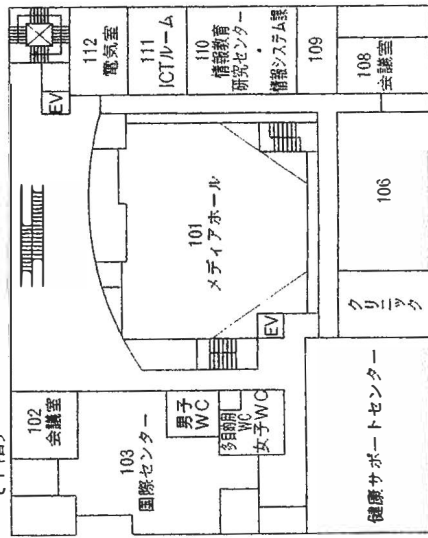
〔5階〕



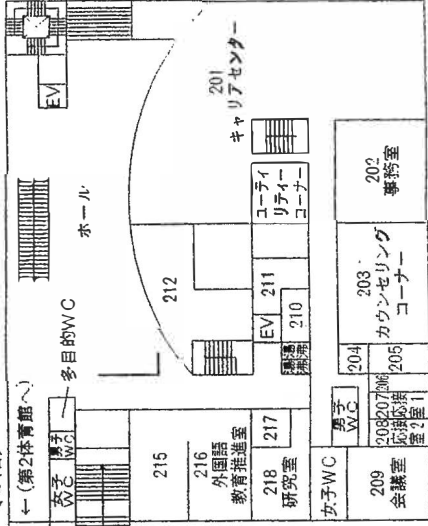
〔6階〕



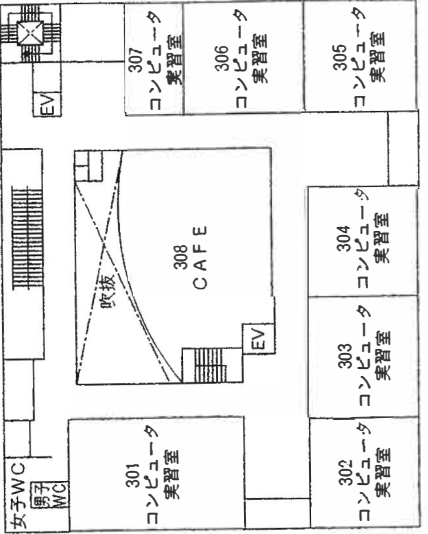
〔1階〕



〔2階〕



〔3階〕



研究発表 I

2018年12月2日(日) 9時30分～12時00分

MM 503号室

I-1 【 幼児と保育者 】

司会 青井 倫子 (愛媛大学)

9時30分～9時55分

幼児の遊びを阻害する要因に関する研究(Ⅱ)

— 幼稚園3歳児クラスにおける保育記録から —

高橋 公子 (奥州市立南都田幼稚園)

9時55分～10時20分

「森の探検隊アプローチ」は子どもたちの学びあいをどのように引き出しているのか

○福島 真吾 (東雲スイミングクラブ)

江田 理英 (東雲スイミングクラブ)

淀澤 真帆 (広島大学大学院)

10時20分～10時45分

保育者養成課程学生に与える実習の影響

中村 三緒子 (淑徳大学短期大学部)

10時45分～11時10分

保育者の職の継続Ⅲ

— 職場内の葛藤に着目した育児休業における職場復帰プログラム —

中井 雅子 (十文字学園女子大学)

11時10分～11時35分

保育者の成長を促す園長のリーダーシップに関する研究

— 遊具としての陶器を導入するA幼稚園の事例から —

○田島 美帆 (広島大学大学院)

淀澤 真帆 (広島大学大学院)

11時35分～12時00分

総括討論

研究発表 I

2018年12月2日(日) 9時30分～12時00分

MM 501号室

I-2 【若者】

司会 谷田川 ルミ (芝浦工業大学)

9時30分～9時55分

10代の出産と自立した生活

梅原 佐知子 (東京都浅草高等学校)

9時55分～10時20分

海外体験の帰国子女への影響

— 帰国子女・保護者・教員への調査から —

安達 美帆子 (T-GAL/元放送大学大学院)

10時20分～10時45分

フリースクール卒業生にとっての「進路未定」

藤村 晃成 (広島大学大学院)

10時45分～11時10分

工業系女子の研究

— 政策・業界動向と職業教育・職業選択をめぐる女性の経験 —

尾川 満宏 (愛媛大学)

11時10分～12時00分

総括討論

研究発表Ⅱ

2018年12月2日(日) 13時20分～15時20分

MM 502号室

Ⅱ－1 【教育格差】

司会 石黒 万里子(東京成徳大学)

13時20分～13時45分

沖縄子供の貧困緊急対策事業と「居場所」言説の変遷

糸数 温子(一橋大学大学院/日本学術振興会)

13時45分～14時35分

学力調査の及ぼした影響に関する研究(2)

— 沖縄本島と離島・秋田との比較をとおして —

- 西本 裕輝(琉球大学)
- 馬居 政幸(静岡大学名誉教授)
- 望月 重信(明治学院大学名誉教授)
- 角替 弘規(静岡県立大学)
- 遠藤 宏美(宮崎大学)

14時35分～15時20分

総括討論

テーマセッション I

2018年12月2日(日) 13時20分～15時20分

MM 506号室

【テーマ】

児童文学とジェンダー

【話題提供者】

ひこ・田中 (児童文学作家)

「どう描くのか」

足立 まな (丹波市立春日部小学校)

「絵本と学ぶ多様な性—授業実践をとおして—」

目黒 強 (神戸大学・研究交流委員会委員)

「児童文学の正統化とジェンダー—男の子像の揺らぎに着目して—」

【コーディネイター】

目黒 強 (神戸大学・研究交流委員会委員)

【司会】

多賀 太 (関西大学・研究交流委員会委員長)

【企画趣旨】

児童文学は、子どもに加え、子どもに本を手渡す媒介者(保護者、教員など)を読者対象としているジャンルである。このようなジャンル特性ゆえに、児童文学には子どもの社会化が期待されてきた。その一方で、社会化からの子どもの解放を試みる児童文学作品も認められる。このような社会化をめぐるポリティクスは、とりわけ、ジェンダーをめぐる生じていると考えられる。

そこで、本テーマセッションでは、ジェンダーの観点から児童文学作品に描かれた子ども像や児童文学作品が手渡される現場の課題と可能性について議論したいと考えた。児童文学研究でも、ジェンダー研究は蓄積されつつあるが、その多くは少女が対象であり、少年については十分に検討されておらず、トランスジェンダーや同性愛などの多様な性についてはほとんど検討されていない(エス=女学生同士の強い絆を除く)。したがって、今回のテーマセッションでは、少女のみならず、少年やLGBTを視野に入れ、議論を拡げたい。

話題提供者として、児童文学作家のひこ・田中氏、小学校教員の足立まな氏、児童文学研究者の目黒強会員にご登壇いただき、それぞれの立場から本テーマについて話題をご提供いただくとともに、立場を超えて議論を拡げたり深めたりできればと思う。

児童文学を導きの糸にしなが、ジェンダーが再生産されたり、更新されたりするポリティクスについて、文学研究者や教育関係者はもちろんのこと、関連領域をご専門とする方々とともに学术交流できればと思う。

注記：登壇が予定されていた、ひこ・田中氏は、本プログラム確定直前にご事情により当日登壇できなくなりましたので、日本子ども社会学会第25回大会発表要旨集録掲載の概要代読により代えさせていただきますのでご了承ください。

研究発表Ⅲ

2018年12月2日(日) 15時40分～17時40分

MM 506号室

Ⅲ-1 【子ども】

司会 西本 裕輝(琉球大学)

15時40分～16時05分

小学校における学級活動の規定要因に関する研究

片岡 倫崇(広島大学大学院)

16時05分～16時30分

放課後児童支援員の育成支援としての「見守る」とは何か？

○中田 周作(中国学園大学)

上田 敏丈(名古屋市立大学)

肥田 武(一宮研伸大学)

中坪 史典(広島大学)

16時30分～16時55分

吃音のある子どもたちのセルフヘルプ・グループ活動の展開(Ⅰ)

— 吃音親子サマーキャンプの実践から —

坂本 英樹(早稲田大阪学園 向陽台高等学校)

16時55分～17時20分

美術鑑賞後の振り返り学習で中学生が記述した内容を質的研究法で解析する試み

— 俵屋宗達『風神雷神図屏風』高精細複製の鑑賞を中心に —

由良 知彦(京都市立四条中学校)

17時20分～17時40分

総括討論

テーマセッションⅡ

2018年12月2日（日）15時40分～17時40分

MM 503号室

【テーマ】

きょうだい関係とは何か：個別性と関係性を探る

【話題提供者】

磯崎 三喜年（国際基督教大学・研究交流委員会委員）

「子どもの個と関係性——きょうだい・友人関係の視点から」

Aung Ko Ko Lynn（国際基督教大学大学院）

「出生順ときょうだい関係の心理」（英語での話題提供、適宜日本語による説明あり）

伊藤 秀樹（東京学芸大学・研究交流委員会委員）

「進路選択ときょうだい——教育社会学の視点から」

【司会・コーディネイター】

磯崎 三喜年（国際基督教大学・研究交流委員会委員）

伊藤 秀樹（東京学芸大学・研究交流委員会委員）

【企画趣旨】

きょうだい関係は、子どもの個と関係性を育むうえで重要なものと言える。しかし、研究の蓄積とそのインプリケーションをよそに、今日では、相互にメリットをもたらすものとしての「資源」と、葛藤と憎悪をもたらす「リスク」という両義性の狭間で揺れている。

本テーマセッションでは、きょうだい関係という視点から、子どもの個別性と関係性の問題を取り上げ、きょうだい関係が子ども社会にとってどのような役割と意味を持つかを論じ、きょうだい関係（および友人関係）について再考することにした。

きょうだい関係は、心理学、教育学、社会学、保育学など、さまざまな学問と接点を持ち、その接合領域として捉えることができる。学際性と独自性を追求する子ども社会学会の特色を生かし、多様な視点からきょうだい関係とは何かを追究・展望し、きょうだい関係研究とその関連領域の問題について議論を深めることができると願っている。

話題提供者として、きょうだい心理学の Aung Ko Ko Lynn 氏に登壇いただく。また、教育社会学の立場から伊藤秀樹会員、社会心理学の立場から磯崎三喜年会員が話題提供し、子ども社会におけるきょうだいとは何かを論じることにした。

日本子ども社会学会 研究集会 プログラム

発行日 2018年11月13日

編集・発行 日本子ども社会学会事務局

〒152-0004 東京都目黒区鷹番三丁目6番1号 内外出版株式会社内